

# 中高年者の適性評価

## —ガイダンス・システム開発のための

### 基礎データ分析から

JILPT主任研究員 室山晴美

#### 1.はじめに

これから仕事を見つけないという若年者の場合、職業選択において重要な要素は、自己理解、職業理解、その二つのマッチングという過程であるとされている。それに対し、中高年者の再就職の場合には、過去の職業経験があるし、今さら自己理解や職業理解を行うよりは職務経験やスキルを整理する

わゆる「棚卸し」の方が重要ではないかという意見がある。確かに過去の職務経験、スキル、実績を見直すことは重要ではあるが、一方で過去にこだわらずに再就職先をうまく見つけることができないうケースもある。そのような時には、私は何が好きか、どんなところが得意かという素朴な視点にもどって自分を見直してみることが意外に役立つのではないかと。また、職業選択における自己理解、職業理解の重要性は、

若年者も中高年者も変わらないと思う。そこで、現在、中高年の求職者の方が自分でパソコンに向いながら職業適性や職業情報を調べることができるようガイダンス・システムの開発を進めている。当機構では既に一八〜三四歳程度の若年の求職者向けのシステム「キャリア・インサイト」を開発した。この実績を元に、今回は三〇歳代後半以上の求職者を対象としたシステム開発を行う。

システム開発にあたって、適性評価の基準値を収集するため、三〇歳代後半〜六〇歳代の方を対象として調査を行った。この結果を年代別に整理し、さらにこれまでに収集した若年者のデータと比較するといくつか興味深い点が見られた。本稿ではこの調査の結果のうち特に職業に関連する能力について中高年者の特徴を紹介したい。

#### 2.調査の内容と結果

##### 調査対象者

調査対象者は、大都市圏（東京、神奈川、千葉、埼玉、大阪、愛知）に在

表1 能力評価の8尺度

能力の8つの尺度	各尺度の示す特徴
①リーダーシップ(PE)	交渉指導力・対人的コミュニケーション能力。
②ボランティア&サポート(SO)	人を世話したり、養護、教育、援助する能力。共感能力。
③プランニング(EN)	計画・実行する企画・行動力。てきぱきと処理する能力。
④スポーツ&エクササイズ(AT)	身体作業の能力。敏捷性・持続性・力仕事の得意さ。
⑤リサーチ&アナライズ(VO)	情報・データの集約、処理や分析力。
⑥コンピュータ&アカウント(DA)	計算、帳簿つけなど数字を扱う能力。
⑦ハンドメイキング(TH)	機械、道具、物を扱ったり操作する能力。手工技能系の能力。
⑧アート&クリエイト(CR)	文学、音楽、美術、デザインなど創造的な活動を行う能力。

住の三五〜六〇歳代の男女で、在職者もしくは過去に職歴があり現在求職中の者という条件で各年代男女それぞれ約二〇〇〜三〇〇名を選定した。適性評価のための尺度を含む調査票による郵送調査を行い、二一三七件の回答を得た。以下の分析では男女とも約一〇〇〇名のデータを用いた。

##### 能力評価の内容

能力評価の尺度としては、「キャリア・インサイト」で用いられている八



図1 年代別各尺度の平均値(男性)

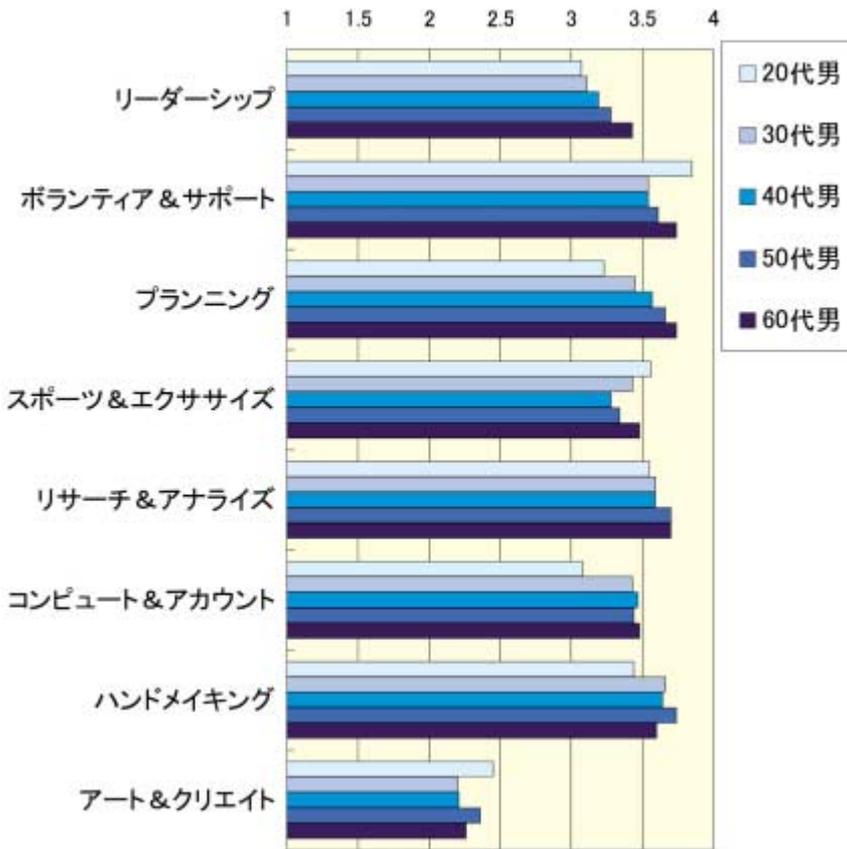
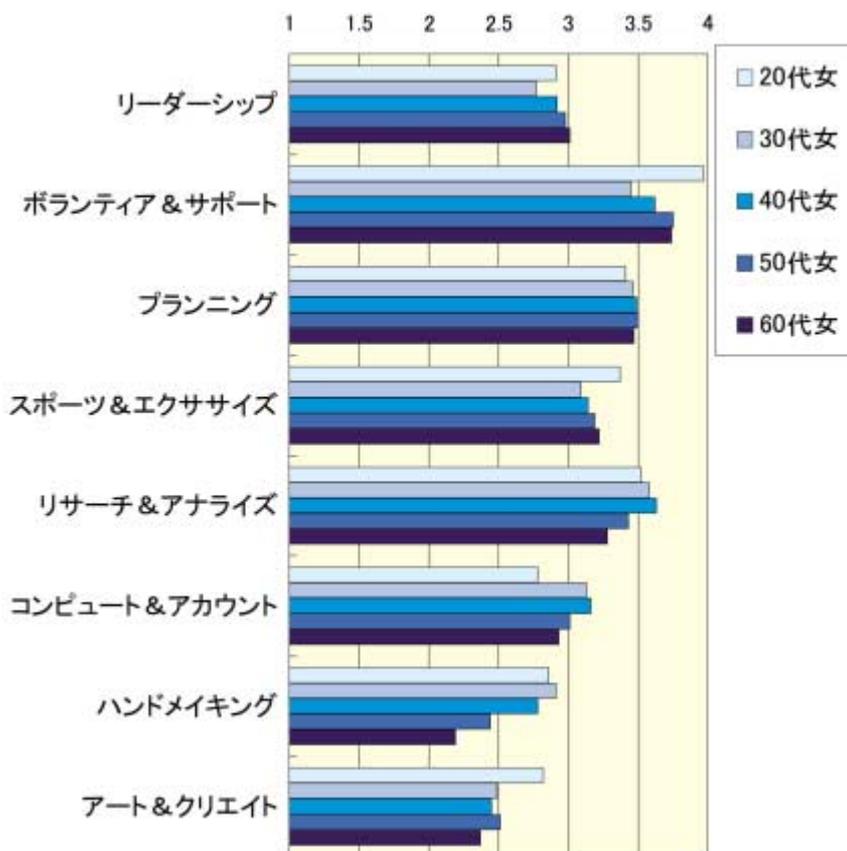


図2 年代別各尺度の平均値(女性)



つの尺度と同じものを用いた(表1)。なお、能力という表現を使っているが、「キャリア・インサイト」では質問項目について自信の程度を「自信がある」「自信がない」までの五段階で評価する形式をとる。そのため、厳密な意味での能力を測定した結果ではない点にはご留意いただきたい。

1と図2である。二〇歳代の数値は今までのシステム開発の過程で収集した平均値である。今回の調査では二〇歳代は対象外であったが、中高年者のデータと比較する意味で参考として含めて表示した。

**男女別にみた能力の特徴**

中高年者のデータについて年代を込みにして男女別に各尺度の平均値の高さをみると、男性の場合、一番高かったのがハンドメイキング(3.6)、次いでリサーチ&アナライズ(3.6)、ボランティア&サポート(3.5)、プランニ

ング(3.5)となった。これらはいずれも平均値が3.5以上である。3.5以下は順に、コンピュータ&アカウント(3.4)、スポーツ&エクササイズ(3.3)、リーダーシップ(3.2)、アート&クリエイト(2.6)となった。女性の場合、3.5以上のもはボランティア&サポート(3.6)、リサーチ&アナライズ(3.5)の二尺度のみとなった。続いて、プランニング(3.4)、スポーツ&エクササイズ(3.1)、コンピュータ&アカウント(3.0)、リーダーシップ(2.9)、ハンドメイキング(2.6)、アート&クリエイト(2.4)の順となった。男女間で尺度の得点を

**年代間の比較**

比較するとボランティア&サポート、アート&クリエイト以外、すべての尺度で男性に比べ女性の平均値が低かった。特にハンドメイキング、コンピュータ&アカウント、リーダーシップにおいて大きな差が見られた。

ーシップ、プランニング、リサーチ&アナライズについては、年代が高くなるほど自信が高まっている。反対に二〇歳代よりも自信が低くなっていたのは、ボランテニア&サポート、スポーツ&エクササイズ、アート&クリエイティブとなった。

女性では、二〇歳代のデータと比較して自信が高くなっていったのはプランニング、コンピュータ&アカウントであった。リーダーシップは三〇歳代でいったん低くなるが四〇歳代以上では二〇歳代をわずかに上回っている。その他の尺度については、年代によっていったん自信が高くなるが後は落ち込むなど、概ね二〇歳代よりは自信が低くなっている。ボランテニア&サポート、スポーツ&エクササイズ、アート&クリエイティブが特に二〇歳代よりも低く、これは男性と同様の傾向であった。

### 3.まとめ

以上の結果をもとに中高年者の能力の特徴として気づいたことをまとめると次の二点があげられる。まず、第一に、中高年者だからといって若年者と比べて能力全般の自信が低下するということはないということだ。もちろん男女とも、体力、創造力、他者への共感能力は二〇歳代に比べて自信を失っているようだ。ただ、男性のデータを見ると加齢とともに自信が高まっている特性も多い。それまでの職業経験によって形成された自信であるといえよう。それだけに中高年者の場合、実際の就職先の選定にあたっては自信の高さが障害となることもあるようで、こ

の調整が難しいといえる。

第二に注目されるのが男女の差である。年代に関わらず男性が得意な分野、女性の得意な分野は見られる。たとえば他者への共感能力や創造力は女性の方が自信をもっているし、機械操作や計算では男性の方の自信が高い。ただ、全般の傾向では、中高年の男性に比べ同世代の女性は能力に関する自信が低くなっている。また男性が加齢とともに自信を高めていく尺度が多いのに対し、女性の場合は特に年代が上になると自信が急に落ち込む尺度がある。女性には男性よりも不得意と感じる部分が増える。そのため、職業選択の幅が狭くなる可能性も考えられる。

このように年代や性の違いによって能力における自信のあり方は変わってくるので、その世代に共通の特徴を理解した上で、個々人の特徴を正確に捉え、その人に最適な職業選択の方向を考えるガイダンスは必要であると思う。中高年者向けのガイダンス・システムの開発にあたっては、この年代の特徴を踏まえた適性評価の情報をきちんと提供できるシステム作りをめざしたい。

### プロフィール

室山晴美（むろやま・はるみ）

労働政策研究・研修機構主任研究員。博士(学術)。主な著書・論文に、「コンピュータによる職業適性診断システムの利用と評価」(教育心理学研究、二〇〇二年)、「キャリア・インサイトによる個性理解」(日本労働研究機構、二〇〇二年)など。

## JILPT 刊行物のご案内

### データブック 国際労働比較 2005

(定価：1,575円/税込み)

日本及び諸外国における労働経済の動向を把握するため、当機構が編集作成した国際比較資料集。34の「グラフとその説明」、150の「統計表」から構成されています。

<目次>

1. 経済・経営
2. 人口・労働力人口
3. 就業構造
4. 失業・失業保険・雇用調整
5. 国際労働移動・外国人労働者
6. 賃金・労働費用
7. 労働時間・労働時間制度
8. 労働組合・労使関係・労働災害
9. 教育・能力開発
10. 勤労者生活・その他 特集「購買力平価」



### 2005 ユースフル労働統計—労働統計加工指標集

(定価：1,575円/税込み)

「労働統計加工指標」とは複数の労働統計の調査結果を素材にして、それらを組み合わせる新しい統計指標にしたものです。これまで政府の各種白書等で採用されたものの中から、あるいはそれをヒントとして自主開発したものを含め、今日でも有用と思われるものを選別し、取り上げています。雇用・労働に関する分野を大きく23のカテゴリーに分け、カテゴリーごとに関連する加工指標を整理しました。雇用・賃金等労働市場の動向を見るための資料として、ご活用ください。



### Japanese Working Life Profile 2004/2005 - Labour Statistics

(定価：1,050円/税込み)



学校卒業から職業生活の終わりまで、日本の労働者の生活を、英訳した統計を使用してわかりやすく提示。統計はすべて公的なもので、労働市場、賃金、労働時間、労使関係、社会保障などを網羅しています。主な項目は日本語訳付き。

### 刊行物ご購入のお申込み・お問い合わせ先

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 (JILPT) 広報部 成果普及課

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

Tel: 03(5903)6263 Fax: 03(5903)6115 E-mail: book@jil.go.jp